

2 目標達成計画

作成日：平成23年5月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 26 | 介護計画は、利用者の現状の問題点について作成しているが、その利用者の思いや意向が反映されていない。 | それぞれの利用者の心身の状況を見極め、その中で本人の思いや意向に沿った「その人らしさ」の表れた介護計画を作成する。 | 利用者本人に現在困っていること、今後したいこと等の希望を聞き取り、そこからニーズを明確にし(本人の希望がその場ですぐにはかなえられるような場合は目標として挙げていない)、それに沿った目標、サービス内容を介護支援専門員、管理者、担当職員が中心となって話し合っていく。 | 3ヶ月 |
| 2 | 40 | 母体法人から食事を運んでいるため、利用者の偏食や咀嚼能力に対応できておらず、残食が多い。又、食事でのコミュニケーションも少ない。 | 残食が減り、入居者が明るい雰囲気でき食事を取ることができる。 | 食事を運んだら、事業所で温めなおす等し、温かい状態で摂って頂く。現在、嚥下状態の悪い方には食事形態を変えたり、アレルギーのある方には違うおかずを提供するなど柔軟に対応はしているが、それでも残食等がよく見られる方には栄養士に相談し、意見を求めるようにする。又、事業所の畑から採った野菜や季節に応じた野菜を使ったおかずを入居者と一緒に一品作ったりすることで、それを話題としコミュニケーションを図っていくようにする。 | 1ヶ月 |
| 3 | 10 | 家族の意見や要望に対する事業所としての独自の対応や取り組みが少ない。 | 家族が意見や要望を言える機会を設け、そこで出た意見や要望を反映させたより良い運営ができる。 | 1～3ヶ月に一度は家族と会う機会を作り、遠方の場合には電話で連絡する等して、利用者の現在の状況を報告。そこで家族の方の意見や要望を聞き取るようにする。 | 3ヶ月 |
| 4 | 5 | 困難事例等、事業所と母体の法人内で解決に取り組んでいるが、市への連絡が密にできておらず、積極的な関わりや連携ができていない。 | 市担当者への連絡を密にとり、協力関係を築くことができる。 | 2ヶ月に一度の運営推進会議へ市担当者にも参加してもらい、その中で助言を求めたり、意見や要望を言ってもらうことで協力関係を築いていくようにする。 | 1ヶ月 |
| 5 | 33 | 重度化や終末期における母体法人の方針が事業所内で共有できていない。 | 重度化・終末期における母体法人の方針を事業所内で共有し、それぞれの入居者や家族の希望に沿った対応ができる。 | 月末の事業所内での職員会議にて重度化・終末期における母体法人の方針を伝え、具体的な話し合いを行うことで、職員間で方針を共有していく。 | 1ヶ月 |
| 6 | 6 | 「身体拘束とは何か」という点での事業所内の職員間で共有できていない。 | 職員間で身体拘束についての定義を理解、共有することで、安全・安心なより良いサービスを行えるようになる。 | 事業所内で「身体拘束とは何か」についての研修を計画、実施する。 | 2ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。